



「また、これからも健康チェックに来てください」…店長さんはじめての場所でまちかど健康チェック・・・河西・にし支部

河西地区にし支部は4/6(火)9:30~11:00に松源木ノ本店前でWHO世界保健デー街角健康チェックを開催しました。事前に配布していたビラを見た9時過ぎに来られた方もおられ、幸先の良いスタートでした。天気にも恵まれ、売り出し日なのか買い物客も割と多かったのですが、みなさん忙しいのか声を掛けても素通りする方が多く受検者は16名と少し期待はずれに終わりました。当日は赤十字の献血車と向かい合わせになり、相乗効果を期待しましたが、初めての健康チェック開催地でもあり医療生協街角健康チェックの認知不足を痛感しました。今回は受検者が少なかったですが、店長さんからは「またこれからも来てください」と言っただき、今後の活動の礎にしたいと思います。



花冷えの中、手作りのおでんは暖かかった 東地区・宮北支部がお花見



4/7(水)満開の桜の下、黒田公園で宮北支部のお花見が行なわれました。19人が参加し、ちらし寿司とおでんがだされ、1年間の労をねぎらいました。松坂さんのアコーディオン伴奏で童謡などをみんなで唄って楽しいひとときを過ごしました。



肌寒い中、前日から運営委員さんによる手作りのおでんの暖かさがお腹にしみました。ごくろうさまでした。

戦争へと向かう激流に立ちふさがる、若き詩人の魂 名匠 神山征二郎監督が万感の想いをこめて放つ、清冽な映像詩

昭和初期、日本が中国への侵略戦争に突入していく暗黒の時代に、「川柳」の革新と芸術の向上を目指し、その「川柳」を武器に、反戦・反権力を貫いた一人の若者がいた。
鶴彬、本名 喜多一(きたかつじ)。1909年(明治42年)1月1日、石川県河北郡高松町(現在ははかほく市)に生れ、15歳のころから、川柳を作り始める。
軍隊内での反戦活動で逮捕され服役した2年間を除き、1937年(昭和12年)12月、治安維持法違反で逮捕され、留置所で赤痢にかかり、翌年9月14日、29歳で亡くなるまでの短い間に1000を超える句と90余の評論、自由詩などを残した。
その全作品を発掘しまとめた「鶴彬全集」(一叩人編・たいまつ社刊)の復刻をした。作家の厚田久枝さんや、評論家の佐高信さん、作家の田辺聖子さんら、出版物や講演で鶴彬を紹介する方も増えてきているが、鶴彬を知る人はあまりにも少ない。
生誕100年を迎える今、鶴彬の作品と、生き様とおして、あの暗い時代へと歴史が押し戻されそうな危険性をともなう現代に鮮烈なメッセージを届けたいという、地元・石川県民の熱い思いと、様々な困難を強靱な意志で乗り越えた名匠・神山征二郎監督によりドキュメンタリードラマ「鶴彬 ころの軌跡」は完成した。


鶴彬 あきら ころの軌跡

暴風と海との産を見ましたか
生き難き世紀の闇に散る火花
都会から帰る女工と見れば病む
遂にストライキ踏みにじる共隊である
暁を抱いて闇にみる蒼
枯れ芝よ団結をして春を待つ
手と足をもいだ丸太にしてかえし
胎内の動きを知るころ骨がつき



平和のために生きぬいた詩人の魂

鶴彬 100周年記念作品
ドキュメンタリードラマ







鶴彬

あきら

ころの軌跡

神山征二郎監督作品

つる あきら

製作：平野寛 神山征二郎 脚本：加藤伸代 神山征二郎 撮影：伊藤嘉宏
音楽：和田薫 録音：水峯康弘 編集：梶野智子 監修：神山征三
脚本書：四方旗彦 助監督：岡本真理子 製作総務：加藤伸代
製作：映画「鶴彬-ころの軌跡」製作委員会 製作プロダクション：神山プロダクション

2010年
4月16日(金) ①14:00~ ②16:00~ ③18:30~
県民文化会館 小ホール 前売券 1,000円 当日券 1,300円

主催/「鶴彬 ころの軌跡」上映実行委員会 協賛/和歌山県川柳協会 選定/文部科学省
問い合わせ/和歌山市吉田102 国労会館2F 国船同盟 TEL・FAX 073-422-7076